

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K22163

研究課題名(和文)水資源をめぐる社会運動の分析：ボリビアを事例として

研究課題名(英文)Analysis of social movements of water resource-Bolivian case

研究代表者

牧田 裕美(Makita, Hiromi)

東京大学・大学院総合文化研究科・特任研究員

研究者番号：00882862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：2021年4月15日に第78回アメリカ中西部政治学会(78th Annual MPSA Political Science Conference Virtual, April 15, 2021)にて「2000年代のボリビア社会運動の解析：エージェント・ベースド・シミュレーションを用いた比較分析」のUnpacking Bolivian social movements in 2000s: Comparative analysis and agent-based simulations」)を発表した。その際に受けたコメントが具体的かつ有益なものが多く、査読論文を通すべく論文を複数回校正している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ボリビアにて2000年代に生じた2つの「水戦争」は、水道事業の民営化を社会運動によって撤回した「社会運動としての成功例」である。しかし、水をテーマとした運動にもかかわらず、「成功」した後も市民の水道サービスへのアクセスは改善しなかった。なぜ、「社会運動の成功」では現状を改善できなかったのか、これを主な問いとして、2つの水戦争を分析している。特に第二次水戦争は資料へのアクセスの悪さから、分析が進んでこなかった。筆者は10年以上かけて資料の所在を明らかにし、分析を進めている。この分析を通じて、水資源の最適な運用と、世界の他の事例への適用が可能となると考える。

研究成果の概要(英文)：On April 15, 2021, at the 78th Annual MPSA Political Science Conference Virtual, , I gave a presentation, "Unpacking Bolivian social movements in 2000s: Comparative analysis and agent-based simulations". I am editing this paper several times in order to get it accepted for peer review.

研究分野：社会学

キーワード：社会運動 民営化 ボリビア 水道事業

【学会発表】

“Unpacking Bolivian social movements in 2000s: Comparative analysis and agent-based simulations”, 78th Annual MPSA Political Science Conference Virtual, April 15, 2021) Hiromi Makita, Atsushi Koyama, So Morikawa¹ and Koji Oishi.

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、2000年代にボリビアで生じた二つの水戦争、すなわち上下水道サービスの民営化を社会運動によって撤回させた事例の比較、分析を行うことを目標として掲げていた。第二次水戦争は、第一次水戦争と比較して研究の蓄積が乏しいため、まずは第二次水戦争の資料を収集することに着手した。その過程で明らかになったことが、第二次水戦争の資料が現在のボリビアの水資源省に保管されていないこと、資料がどこに保存されているのか、さらには、保有者が誰なのかが不明な状態であるということであった。

(2)筆者が持っていた当時の新聞から、社会運動のアクターの行動、政府の対応、これらを整理すると、「社会を変革しようとする組織によって、運動が起こり、その行為に対して政府が法整備などの対応を行う」という筆者の考える「社会運動」の定義に該当することが改めて確認できた。第一次水戦争と同程度の分析を行うためには、第二次水戦争の資料を収集することが不可欠であると考えた。

2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、ボリビアにおける二つの水戦争を比較・分析することで、より良い水道サービスの提供を実現できるような水資源管理のあり方を明らかにすることであった。

「貧困層ほど、富裕層と比較した際に、より高額な水道料金を支払わざるを得ない状況に置かれている」ことは、水道サービスへのアクセスに関する先行研究からも明らかとなっている。実際にボリビアの事例では、富裕層は自宅に井戸を採掘し、いわば無料で水を利用できることに対して、貧困層は井戸を採掘する資金がなく、富裕層の井戸から採掘された、トラックで運搬された水を購入せざるを得ない状況にある。その際の料金は公営水道を利用した場合よりも高額であり、生活に必要な量の水を購入できないため、入浴回数や洗濯の回数を減らす、という非衛生的な環境に置かれている。

(2)ボリビアの貧困層が置かれている状況、つまり「経済的な階層によって水道サービスへのアクセスへの不平等性が生じる」ことは、世界中で起きていることである。ボリビアは社会運動によって水道サービスの民営化を二度も撤回できた、いわば「社会運動の成功例」である。そのボリビアにおいても、水戦争で勝利しても水道サービスへのアクセスは改善されないという状況がなぜ生じるのか、それを明らかにするには、まず二つの水戦争を理解することが必要であると考えた。また、水道サービスへのアクセスを改善するための方策を考え

るための示唆を得られるのではないのか、それを明らかにするためにも二つの水戦争の詳細な分析が必要であると考えた。

3.研究の方法

(1)本研究は、現地調査で得たデータと、シミュレーション研究の融合によって、ボリビアの二つの水戦争の全貌を明らかにすることを研究方法として掲げていた。研究を進めるうちに、現地調査で資料を得ることにはかなりの労力が割かれることが明らかとなった。本研究の研究期間中に、ボリビアに約6ヶ月滞在することができたが、それでも資料の一部のみしか得ることができなかった。ボリビアの第二次水戦争の資料は、公的機関、例として水資源省などには現存せず、第二次水戦争に関与した社会運動家や研究者のみが保有していることが明らかとなった。彼らのスケジュールを優先し、資料をスキャンさせてもらったが、資料の多さだけでなく、筆者以外の人物には研究資料を閲覧させたくないとの資料所有者の意向を尊重した結果、満足のいく資料収集を行えなかったことが悔やまれる。

(2)まず、筆者が資料を多く保有している第一次水戦争の分析から着手することとした。どのような組織がどのタイミングで連帯を行い、水戦争を同国史上最大規模の運動にすることができたのか、この問いを明らかにすることを試みた。これまでの第一次水戦争に関する分析は、運動の過程に着目するものが多かった。筆者は、運動が始まる前、つまり運動組織が何を目的とし、どのタイミングで連帯したのか、それらを当時の新聞、運動参加者が作成した年表、現地専門家の分析を基に、状況整理を試みた。これによって、第一次水戦争の大規模化を説明する要因となる鍵を握るアクターらは、運動が開始する前に既に連帯していたことが明らかとなった。つまり、これまでの研究では運動が激化してから、どの組織がどのような役割を果たしたのかを説明するものが多かったが、それら組織が連帯したのは運動の最中ではなく、社会運動としていかに活動するのかを検討している段階で連帯を実現していたのである。第一次水戦争は、運動の過程で自然と連帯が強化され大規模化したかのような説明が行われていたが、実はそれらの連帯は社会運動の準備段階で行われていたことが明らかとなった。

4.研究成果

(1)この研究成果を国際学会で発表したが、査読論文を通すまでには至っていない。理由として、第一次水戦争と同じ解析度で第二次水戦争を分析できていないことが挙げられる。それでも、第一次水戦争のリーダーが「第一次水戦争は参加者の自然発生的な連帯によって大規模化した」との説明を覆すことには成功していると言える。

(2)更には、本来であればコピーすることも禁止している資料を、筆者には特別にコピーさせてくれた社会運動組織のリーダーの資料が、本分析に非常に有益だったことも、現地調査の成果であるとも言える。本資料を用いた分析は未だ行われていないため、論文として発表

することには大きな学術的貢献があると考え。まだ改善の余地はあるが、複数回の現地調査を経て構築した信頼関係によって、門外不出の資料を入手させてくれたこと、これに関しては調査対象者に感謝しかない。その気持ちに報いるためにも、早く査読論文を通すことが今後の課題として挙げられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Koyama, Makita, Morikawa, Oishi
2. 発表標題 Unpacking Bolivian social movements in 2000s: Comparative analysis and agent-based simulations
3. 学会等名 78th Annual MPSA Political Science Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------